

思いつくままに!!

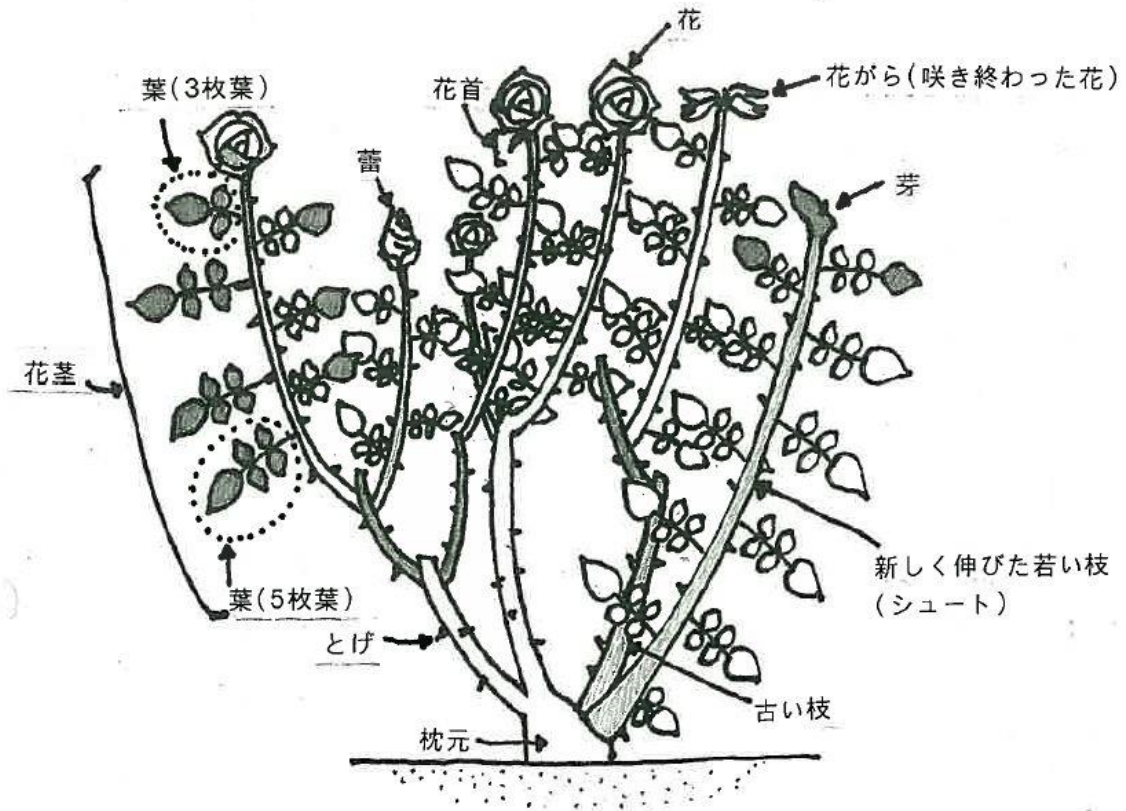


富士ばら会会長 鈴木 謙次

<目 次>

1. バラの各部の名称	1
2. 肥料	2
3. シュート	3
4. バラ管理の用具	5
5. 咲ガラ(花ガラ)	6
6. 剪定	7
7. 年間作業表	9
8. バラの花の種類	10
9. バラの害虫	11
10. バラの病気	15

1 【バラの各部の名称】



○バラは基本的には5枚の花弁で構成されています。

(ノイバラ等原種)

○改良品種は、ほとんどが重弁化し何十枚もの花弁を持つものもあります。(オールドローズ・イングリッシュ等)

○花は基本的に頂上部に一輪咲くか房咲になるものもあります。

○葉はイラストでも分かる通り、茎に対して互い違いの方向につきます。

○種類によっては本葉7枚、9枚のものもあります。(つる系に多い)

2 【肥料】

ここでは8－8－8を基準に記します。

肥料には必ず上記のような数字が書いてあります。数の大小により施肥の量を調整してください。物によっては生産者の所に記されています。

まず、液肥から、ハイポネックス等薄めるタイプは用量を守り、一週間に一度くらいかん水代わりに与えます。

置くタイプは月1回与えます。次に置く時は前回置いたものは取り除きます。油粕等は花を咲かせるリン酸がほとんどないので、リン酸を追肥します。

固形燃料は、化成肥料とも言われ多種あります。富士ばら会でもこのタイプ使用しています。配合肥料も化成肥料の仲間ですが、配合肥料で話します。鉢植えの場合、毎月50g～100gを鉢の縁にやります。地植えの場合は毎月のははワンカップのグラスに一杯。年2回だと8月の初めに1kg、1月初めに1kgと元肥として堆肥等を2kg～3kg与えます。

※元肥は毎月やっている人もやります。

3 【シュート】

シュートにはベーサルシュートとサイドシュートがあります。

※ベーサルシュート

一番花が終わる頃から根元から勢いよく出てくる新芽のことをベーサルシュートと言います。放っておくと剣のようにまっすぐ上に伸びています。でも、放っておくと上部は箒のように細かく分かれて小さな花しか咲きません。それにちょっとした風で元から折れてしまいます。大事なことはこれが将来の主幹となります。この新芽を育てるためには摘芯をいう作業を行います。

本葉が下から5枚位の所で芽を指で摘みます。この作業をピンチといい2段・3段と繰り返し花は咲かせません。また、支柱を立て保護すればなお良いです。

※サイドシュート（途中シュート）

枝の上の方から勢いよく出る新芽の事をサイドシュート（途中シュート）言います。若い株に出やすく、良い花を咲かせるので、咲かせても良いのですが、これも放っておくと箒状になるので摘蕾します。7月頃までに出た、ベーサルシュートは夏の剪定の頃には、2段・3段になっているはずですが。8月以後になって出たシュートは剪定の時、樹形を見ながら行うようにします。

シュートはバラの樹の新陳代謝をよくする性質を持っているため、シュートを上手く利用することがバラ栽培の大切な仕事といえます。

では、つるバラはどうするか？

「勢いよく3m～6mも伸びてジャマだから全部切ってしまう」と聞きますが、これは間違いで他のバラと同じで、シュートがなければ

新陳代謝は行えません。確かにつるバラのシュートはベーサルシュート、途中シュート共にすごく伸びます。この両方のシュートとも伸ばせるだけ伸ばして支柱を立て、このシュートを支柱に軽く縛っておきます。1本のシュートに1本の支柱ではなく、近くのシュートはまとめて縛って良いのです。これらは、なるべくまっすぐ上に伸ばすようにします。また、今ある設備に縛っても良いのです。要はシュートを横にしない事を心がけてください。(花は咲かせない。咲いても頂部に1~2輪程度)

4 【バラの管理に必要なもの】

- スコップ

庭植えの時に使用、土替え、天地返し時にも使用

- 移植ゴテ

鉢植えの土入れに

- バケツ・ジョウロ

水遣りにはかかせない。ホースで直にやるときは必要ない。

- 剪定バサミ・剪定ノコギリ

剪定の時はどうしても必要、またはハサミは咲きガラ摘みにも使用する。

- ブラシ・固めのハブラシ

カイガラ虫のカキ落とし用に

- 革手袋

バラは棘があるので手の保護のために

- ゴム手袋

植替えとか肥料やりとか使用は多い

- ゴミ入れ

剪定、花ガラ摘み、草取り等後で片付けるより作業しながら片付けることで手間がかからない。

- シュロ縄及びジュート ⇒ バラの固定に

- 支柱 ⇒ 風でバラが根本から動かぬように

- ネームプレート

バラは品種が多いので、必ず付ける。

5 【咲がら摘み（花がら）】

本には花がらとありますが、今まで富士ばら会では咲がらと言っていました。

咲がらとは、花が終わり花弁が落ちた状態のものを言います。

花の咲いた後、そのままにしておくと実がついて株が弱ってしまいます。それと次の花を早く咲かせるために行います。つるバラ等の一期咲きの種類も咲がらを取ることににより、返り咲きすることが多々あります。夏の剪定の前後で咲がら摘みの仕方を変えた方が良いでしょう。

- ① 4月～8月末まで（夏剪定）は5枚葉の上で切ります。葉のついている方から切ってください。
- ② 次の芽が出ていたらその上で切ります。
- ③ 夏剪定後の咲がら摘みです。

来年のために株を育てるのに葉が1枚でも多くほしいので花冠（実）のみをとります。つるバラの場合も花冠のみを取ってやりますと返り咲きをします。また全然取らないで秋にローズヒップ（実）の色づくのを楽しむこともあります。

6 【剪定】

バラの場合剪定と言うと冬寒い時期に行うことを指します。ただ、温かい地方は夏剪定も行います。

では、なぜ冬に剪定するのか？バラの株が休眠期に入っているのでストレスを与えないからです。

剪定は不要枝の整理や樹高の調整を行うことにより春の花枝を制限し、花数の調整をし、より良い花を咲かせるのが目的であり1年の樹形を整える意味もあります。

この剪定を行わなければ、昨年伸びた枝の先から細い芽が何本も出てしまうので病気にかかりやすく、良い花が咲かなくなってしまう。

株の新陳代謝の手助けをして、若返りさせ成長を促進するために剪定は欠かせません。

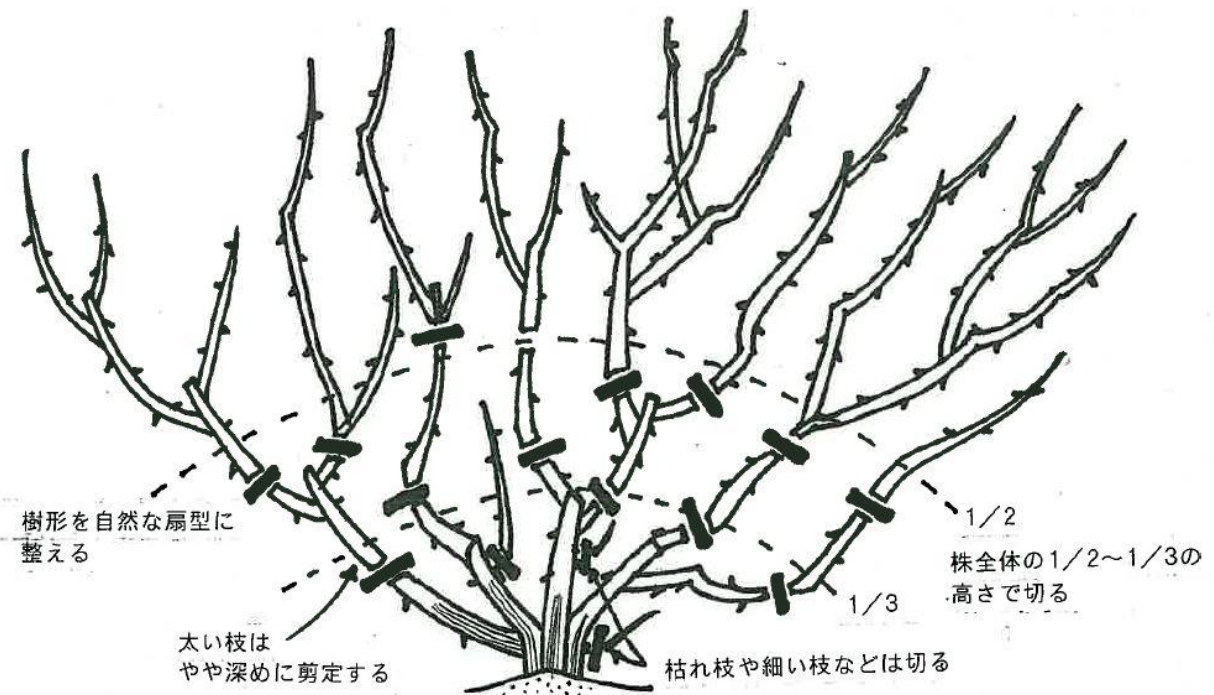
※時期

富士地区では1月・2月が適期であります。大淵や富士宮は2月下旬が良い。原因は温度の差があるためです。信州等寒冷地は3月・4月に行うところが多いようです。近くでは富士山こどもの国も3月下旬に行います。

※用意するもの

- ・ 剪定バサミ（よく切れるもの）
- ・ 手袋（できれば革手袋）
- ・ くず入れ（買い物かご等）
- ・ ノコギリ（剪定用）

- ・ ここで剪定バサミとしたのは、バラの場合植木バサミだと切り口がつぶれ易く、つぶれた所から枯れ込みの原因となるからです。
- ・ 革手袋が良いをしたのは、バラには棘があるからです。
- ・ ノコギリは剪定用としたのは、一般のものだとすぐ目詰まりを起すからです。

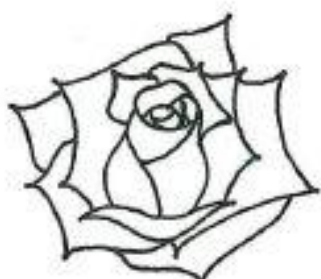


7 【年間作業表】

年間管理 バラのお手入れカレンダー

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
施肥	庭植	寒肥 (フラワーメーカー 200g) + 乾燥牛フン (5L/1株)						苦土石灰 (50g/1株)					
	鉢植			追肥			追肥			追肥	※追肥: フLOWERメーカー 庭植 50g/1株 鉢植 小さじ1杯/6号鉢		
病虫害防除						うどん粉病薬剤散布					うどん粉病薬剤散布		
						ハダニ発生 殺ダニ剤散布							
				各種いもむし・ケムシ・アブラムシ発生 殺虫剤散布									
剪定・誘引	木バラ	剪定								剪定			
	つるバラ	剪定・誘引					四季咲品種の咲がら切り/長いシュートの仮誘引					剪定・誘引	
植付け		大苗植付け・鉢の土替え				新苗 植付け				大苗植付け・鉢の土替え			
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月

8 【バラの花の種類】



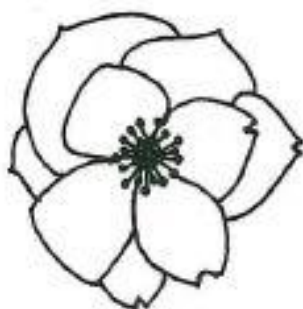
剣弁高芯咲き



丸弁抱え咲き



カップ咲き



平咲き



杯状咲き



房咲き



ロゼット咲き



クォーター・ロゼット咲き



ボンボン咲き

9 【バラの害虫】

○アブラ虫（1年中）

アリと共生する種類が多いので、アリマキとも呼ばれています。新芽、若芽等に群がって養分を吸収するため、成長が損なわれます。少ないときは手でもつぶせますが短期間で増殖するため、早期の防除が必要です。発生時期は1年中、特に春先から夏にかけて多いようです。

予防として、スミチオン、マラソンの1000倍液、アディオン3000倍液、トレボン2000倍液いずれも乳剤です。また、オルトラン、アンチオ粒剤、カルホス粉剤等根から吸わせるのも効果があります。

○ハダニ（5月～10月）

体長0.7mm～0.8mmと非常に小さく見つけにくい虫です。葉裏について樹液を吸うため、葉が白っぽく変色し、ひどくなるとクモの糸で覆われたようになります。高温・乾燥期に多発します。予防としてホースの水で吹き飛ばします。

薬として、ダニトロン1000倍液成虫のみです。コロマイト、ダニカット、ダニトロンフロアプルは成虫、卵、幼虫に効きます。

○チュウレンジバチ（5月～10月くらい）

成虫は約1cmくらいで腹部がオレンジ色で背中が黒色です。バラの柔らかい茎に産卵し、成虫よりも卵からかえった幼虫のほう

が被害が大きいので、見つけ次第捕殺します。茎の縦方向に傷があればそこに産卵していますから、卵をつぶしておくか、切り取って処分します。また、卵からかえったばかりの頃はまとまっているので捕殺するのに適しています。大きくなるとバラバラに散ってしまいます。

殺虫剤はスミチオン乳剤、マラソン乳剤、オルトラン乳剤の各1000倍液を散布します。

○カミキリ虫（成虫は6月～8月、幼虫は1年中）

バラの根本に穴を開けて卵を産みつけます。幼虫は俗にテッポウムシと呼ばれ草下食害しながら樹の中心部に進みサナギになるまで食害します。中心部は空洞になり、枯れてしまいます。幼虫がいる樹は、被害部の近くに細かい木くずのようなものが出ていますから発見の目安になります。成虫は見つけ次第捕殺。

殺虫剤はマラソン乳剤、スミチオン乳剤の原液を被害部の穴より注入します。

○カイガラ虫（1年中）

成虫は2mm～3mmで手足もなく羽もありません。枝や幹にベッタリくっついて寄生します。ロウ質の分泌液を出して体を覆い長い口針から樹液を吸い、しかも移動もします。ちょっと固めのブラシや歯ブラシ等でこすり落とします。

殺虫剤はとしてマシン乳剤の30倍液か石灰硫黄合材の5倍～10倍液を用います。また、オルトラン粒剤も効果があります。

○バラクキバチ (4月～5月)

体長 2 cm弱の細い腰をした黒色のハチで、メスはオスよりも大きく胴には赤色の帯があります。新しい花枝が伸び蕾が見え始めた頃、花枝の上部が突然しおれてビックリすることがありますが若い枝等に卵を産みつけるため、そこから上に樹液がいなくなり、しおれてその先は枯れます。有効な薬はありません。しおれた所に卵がありますので、少し下から切り取って処分します。

○コガネ虫 (5月～10月)

俗にカナブンと呼ばれています。成虫は体長 1 cm～2 cmくらいで多くは金属的な光沢があります。どこからでも飛来し花、蕾、葉などを食害します。幼虫は根切り虫と呼ばれ、根を食い荒らします。8号鉢ですと 3～5匹いると枯れてしまいます。成虫は捕殺します。幼虫の対策として、カルホス、デブトレックス、オルトランDXを地上にまくことです。

○バラゾウ虫 (3月～5月)

成虫は 2 mm～5 mmで米につくコクゾウムシによく似ています。象虫の名のとおり口先が象のように長く新芽を食害します。食害された芽は黒く変色し枯れます。成虫は捕殺します。

殺虫剤はスミチオン乳剤、カルホス乳剤の 1000 倍液を散布します。

○スリップス (5月～11月)

和名をアザミウマといい 1.5 mm程の小さな虫です。花卉に潜り込み産卵します。成虫・幼虫とも花卉や葉裏について樹液を吸うため、花卉が茶色のシミに見えます。

殺虫剤として、オルトラン粒剤をまくスミチオン乳剤 1000 倍を直接散布する。

10 【バラの病気】

○黒点病（黒星病 4月～12月）

春の開花樹前後から発生し始め、そのあと寒くなるまで発生します。葉に黒い点ができ次々と伝染し、やがて落葉します。葉をそのまま放置しておくと株全体に病気が広がるととても怖い病気です。落葉はすぐに処分し、予防をして病気の広がりを防ぎます。

予防としてマルチング、ダコニール水和剤 1000 倍オーソサイド水和剤 750 倍トップジン M 水和剤 1000 倍ベンレート 1000 倍等を芽の出始めから散布します。発生したらサプロール水和剤 1000 倍を 2～3 日おきに 2～3 回散布します。

○うどん粉病（春・秋）

黒点病と並ぶバラの病気のひとつです。病状はうどん粉のような白い粉状のものが、最初は若葉に出て株全体に広がっていきます。葉は変形し醜くなります。落葉はしませんが、生育はかなり阻害されます。しかし夏には自然に治り秋に再発します。株の風通しを良くすることでかなり防げます。

予防薬としてはダニコール 1000 倍液、トップジンM1000 倍液等があります。発生した場合は治療薬としてサプロール 1000 倍液、バイコラル 2000 倍液、ルビゲン 3000 倍液、ミラネシン 1000 倍液等を 3～4 日おきに 3～4 回繰り返し散布します。

○根頭癌腫病（1年中）

土中の病原菌が根や接ぎ口より侵入し徐々にコブになっていく病気です。今のところ完全な防除法はありませんので、発見次第コブを木質部の所まで削り取り殺菌剤を塗っておきます。また、発生しないか注意が必要です。鉢植えの場合、発生した土は熱処理をしない限り使用すると伝染するので使用不可です。使用した道具も、アルコール消毒か熱湯をかけて殺菌してください。

○灰色カビ病（多雨の時期）

膨らみかけた蕾が開かず灰色のカビが出たような状態になります。落ちた花卉や葉などを好み発生しますので、風通しを良くし、地表をきれいにしておくことが大切です。万一発生したときは、花や枝等を早めに処理して拡散するのを防ぎます。うどん粉病や黒点病の薬で防除してください。

○ベト病（湿度差の激しい時期）

きわめて急性で恐ろしい病気です。葉脈に沿って紫色や淡黄色の斑点を生じ葉裏に白い霜柱のようなカビが発生します。被害にあうと葉は急に落ち新芽や蕾は枯れてしまいます。

リドミル 1000 倍液、アリエッティ 1000 倍液、ダコニール 1000 倍液、降雨の前後に散布する薬としてダイセン、ステンレス液 1500 倍液、オーソサイド液 750 倍液、リドミルMZ液 1000 倍液

○ネマトーダ (1年中)

地植えの株は発見しにくいと思いますが、鉢の場合植替えの時根をよく見てください。根の先の細い部分の所々に小さいコブや粒状のものがつきます。地中の線虫の一種で、これによる寄生の病気です。完治はできませんから被害部の根、ひどいようなら株ごと処分してください。地中の殺菌をしてください。



富士市オリジナルバラ かぐや富士